

残していきたい町の宝

ながさき遺産めぐり

長崎の中の長崎編～中島川から寺町界限



制作:長崎伝習所  発見!ながさき遺産塾
協力:町のみなさん

長崎らしさが残る町の魅力を守り、次の世代に残すためには何が必要なのでしょう。その町を構成してきた「長く使われてきた建物」や「長く続けられている商売」などを守り継承しながら、まちを構築していくことだと考えます。

そこで、私たちの塾では、長崎らしさが残る中島川から寺町通り界隈に注目し、町のなかにある80年以上使われている建物と、50年以上続いている商売などを町の宝として「ながさき遺産」になると考えられました。

ぜひ、「ながさき遺産」をめぐって、中島川から寺町通り界隈に残る長崎らしさを感じてください。

古川町(旧) (ふるかわまち)

町建の当初、戸町村古河(ふるこ)の住民が移住して出来たと伝えられているが、明確ではない。内町側中島川沿いの町では一番古い町ではないかと言われている。

1672年、本古川町・東古川町・西古川町の三町に分割された。

昭和41年、町界町名変更があったが、住民運動により三町に戻った。



鍛冶屋町 (かじやまち)

当時は町外れの荒れ地であった中島側の対岸の現在の寺町側に鍛冶屋が集まり、鍛冶屋町となったが、さらに発展し、今鍛冶屋町が出来たとき、最初に出来た鍛冶屋町を本鍛冶屋町と改称した。

銀屋町 (ぎんやまち)

別名白銀町ともいう。職人町のひとつで、銀細工をよくした人たちが集まったと考えられる。

諏訪町 (すわまち)

長崎の氏神諏訪神社は最初この地に奉祀されていたのでこの町名がつけられたという。

くんちの奉納踊り「竜踊り」が明治初年からはじめられた。

それ以前は諏訪の町名にちなんで八重垣姫の踊りなどがなされていた。

市民会館

東新橋

紺屋町

新橋町

23

22

24



新橋町 (しんばしまち)

この町から八幡町にかけては生活必需品を多くつくる町であった。

磨屋町 (とぎやまち)

刀や鏡などを磨く人たちが住んでいた町と考えられている。

中通り商店街編で紹介しています。

出典
長崎事典
長崎文献社刊

紺屋町 (こうやまち)

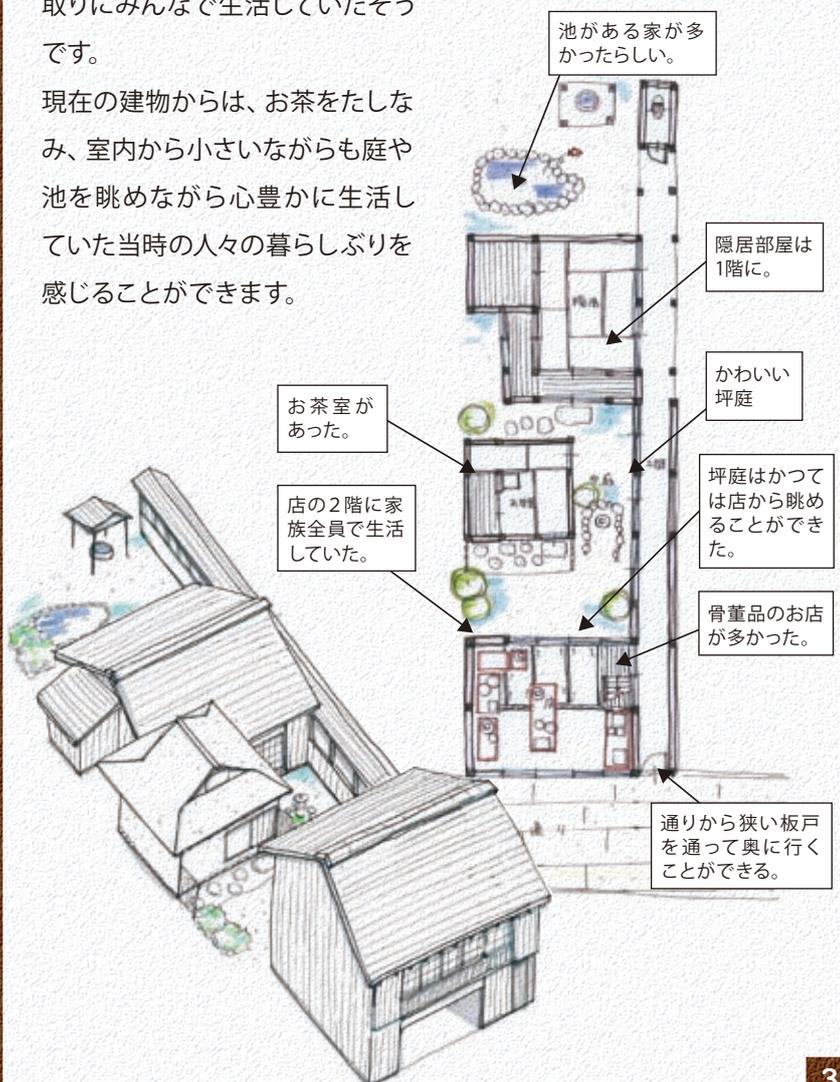
もともと紺屋町は1597年に、中島川沿いに材木町に続いてつくられた町で紺屋(染物屋さん)が集まって出来た町をいっていた。

聞きとり調査による住まいのイメージ例

中通りにはかつて、多くの骨董品店がありました。

多くの店は間口に対して奥行きが長い、「うなぎの寝床」風の町家で、店の脇の小さな板戸を通り抜けると、中庭を挟んでお茶室や隠居室があり、また、家族は店の2階に、個室をもたず、田の字のような間取りにみんなで生活していたそうです。

現在の建物からは、お茶をたしなみ、室内から小さいながらも庭や池を眺めながら心豊かに生活していた当時の人々の暮らしぶりを感じることができます。



西古川町

平成20年奉納踊り(櫓太鼓)



天保6年 櫓太鼓

西古川町の由来

寛文12年(1671)旧古川町が分割されてできた町。中島川沿いの細長い町で埋築により町域を広げたものと伝えられる。昭和41年の町界町名変更で現諏訪町、古川町、万屋町に分割された。

長崎辞典「長崎文献社」より

九州の

相撲は西古川町抜きには語れない!



木戸御免の札



免許札

エピソード

西古川町相撲之古術(故實)

前口上

東西東西東西 しばらくの間 平(たひら)一面にお静まり下さりませう

当處土産(うぶすな)神諏訪社御大祭につき奉納相撲の内櫓太鼓獻し奉る 従而相撲の古い術を一羽(いっぱ)

古術

そもそも相撲と申するは 昔むらさきの里に於て鎮西八郎爲朝の末孫同じく十郎朝長は齡僅かに拾八歳 何卒我が力を都へひろめんが爲廣き處に二十五間四面の矢來を結(ゆ)ひ中に拾六俵の土俵を築き 角(すま)に四本の柱を樹て 上に紫の絹を張り 東には龍の勢(いきをい)あり 西には虎の威勢(いせい)あり 又(まつた)行司の軍扇(うちわ)日月の如し千番一番を蒙(こうむ)る事嘉例(かいらい)なり

昭和二十六年十月
肥前國長崎西古川町由來記より

西古川町と相撲のかかわり

江戸時代、相撲の興行が行われておりましたのは、三都・五場所と言われておまして三都とは、三つの都、当時の『京都・江戸・大坂』を意味し、五場所とは『仙台・名古屋・和歌山・岡山・長崎』であるといわれております。つまり長崎は、九州唯一の本場所です。非常に相撲が盛んであったと推測されます。土俵があったであろう場所の地図を示します。

寛文十二年(1672年) 西古川町ができました。
延宝二年(1674年) 「長崎くんち」に初めて参加しました。
享保二年(1717年) 『吉田司家』より西古川町家持『浮船百度兵衛』が相撲頭取の免許を与えられました。長崎一円に於ける相撲興行(勸進相撲及び興業相撲共)及び一切の後見は、全て西古川町の采配を受けることとなりました。西古川町の相撲頭取は、相撲興行の勸進元なので、西古川町住民に対し『相撲之通券』を貸し与えました。今言うフリーパスが発行されたのです。

文政四年(1821年) 西古川町が初めてくんちに『櫓太鼓』を奉納したといわれています。

天保六年(1835年) 西古川町の太鼓がつくられました。明治後期 『大日本角力協会』設立により、他地方に類例がない制度が議題となり永田山庄三が頭取免許を吉田司家へ返上しました。

エピソード

西古川界隈は、昔魚市場でした。



今も残る建物



精洋亭の階段も現存

1 岩永金物店

創業は明治28年。先々代が島原からきてお店を始めました。現在の建物は平成のものですが、以前の雰囲気を残しています。古い金物、戦時中の代替材料、大八車など お宝多数。

資料提供 岩永和之氏

鍛冶屋町



大正堂書店(昭和5年)

2 大正堂書店

創業は明治43年(1910年)。大正の始めから鍛冶屋町で営業しています。「長崎学専門店」として、市内だけでなく作家や出版者の間では有名な古書店。長崎の歴史の勉強には欠かせないお店です。



20年前まではこの店舗でした。写真は昭和15年(1940年)に撮影。建物は文久2年(1862年)に建てられました。

3 平野楽器

創業は幕末。現在も三味線や太鼓などの修理を、使い込まれた道具を使って昔ながらの方法で行います。店内には歴史が刻まれたレジスターや筆筒が並んでいます。



銀屋町

4 銀屋町教会



明治9年(1876)に出島に創設され、明治37年(1904)に銀屋町に移転しました。写真は当時の建物です。



5 高田酒店

江戸時代の創業で、現在建っている建物は明治中期の建物です。近所の町家も少なくなりましたが、地域が賑わって欲しいとの思いから、自宅の大正時代の写真を発見して「是非当時の姿に戻したい!」と、頑張っている高田酒店さん



7 実藤フルーツ

戦後から続く果物屋さん。生ジュースコーナーが目印です。中通り商店街の買い物客の憩いの場になっています。この町が大好きなおばあちゃんに会えます。

10 下野商店

昭和30年前から開いている駄菓子屋さん。近所の子供達から「シモノヤ」の愛称で親しまれています。親子2代で通うお客さんも。建物は昭和26年頃に建てられたそうです。なつかしい雰囲気のお店です。

8 八雲堂さん

明治からの建物に手を加えながら、半世紀続く家庭的なお店です。

9 永田仏具店



昔は、お盆の時期には、お墓参りの人で人通りが多かったそうです。

このお店には、うるし職人であった先代が使っていた100年以上前の古い道具箱や、50年以上前の竹定規が今も残っています。

寺町通り

この寺町通りは、通り沿いにお寺や仏具屋さんがあり、全国的に珍しいそうです。長崎のお墓は、墓石に、家名などの文字が、金色に刻まれており、他県から来られた方は驚くようです。お盆の時も、お墓で、爆竹を鳴らしたり、花火をしたり、お墓参りが賑やかなのも、長崎ならではの光景です。お線香が中国風の長くて太いのも、長崎流。通りは、車が通るたび、ガタガタと石畳の音が聞こえ、情緒たっぷりです。

6 家具の永石

創業は大正時代、店頭には将棋盤が。昔は将棋の基盤を作っていた家具店が沢山ありましたが、今では市内でもこのお店だけだと御店主のコメント。これからも続けて頂きたいものです。

中島川

銀屋通り

銀屋通り

東古川町・本古川町

東古川町・本古川町にも沢山の「まちのお宝」がありました。
今回は、古くからのお店や古い木造の建物（町家等）を
活用しているお店等を中心に、ご紹介します。

11 古田勝吉商店

明治10年に大村町で創業し、大正8年から本古川町に。日本でも1番(!?)古いラムネ店で、現在は3代目。昭和58年に建て替えるまでは、江戸天保時代の建物だったそうだ。



14 橋口石材彫刻店

明治時代の建物で、70年前からこの場所でお店を開業しています。現在はお店だけで、工場は本河内にあります



15 吉田邸・南蛮茶屋

弘化4年(1847年)の建築で、このあたりの町家では、一番古い建物の可能性が高い。軒の高さが低いのが古い町家の特徴だそうです。2階建の長屋で、向かって左に南蛮茶屋(喫茶店)、右側を絲屋(飲食店)、中央に家主の吉田氏が住んでいます。南蛮茶屋のレトロな雰囲気の内には、時間を忘れて物想いにふけるのに最適です。



16 吉村たばこ店

建設後100年以上経過している建物で、3代続きたばこ屋さんです。看板娘は話好きのおばあちゃん、みんなの勤めもあって今も続けているそうです。建物の外観は、しっくい壁、うだつ、鉄の防火扉が見られ、また、玄関には、大戸やくぐり戸が残っていて、お願いしたら見せてもらえるかも…



12 INDIES ART CLUB and GALLERY

(インディーズアートクラブアンド ギャラリー)
情報発信が出来るギャラリーをつくらうと、明治時代の古い町家(戦前の様子を知る方の話によると…)を手作りで改装し、1階を喫茶店とギャラリーに。2階では絵画教室も行っています。(店内は、古い建具を間接照明に再利用するなど、工夫したアイデアが随所に見られますよ!)

13 コロケ

古い家屋の一角を利用してコロケを中心とした洋食レストランを営んでいます。オリジナルのステッカーも創業当時から変わらぬデザインで、学生時代の懐かしい記憶がよみがえります。お願いすればもらえるかも・・

磨屋町



21 萬順

明治17年(1884年)に新地で長崎初の製菓店として創業し『脆麻花(よりより)』『金銭餅』が有名な長崎の老舗です。
特に『よりより』は3代目が付けた愛称で長崎ではなじみの深いお菓子です。
今の場所には昭和40年位に移転したそうです。
現在の建物も歴史が有り、浜屋の縫い子さんの工場だったそうです。
最近町並みに合わせて改装工事を行ったそうです、店内にはあんこ練機やオープン、かまなど昔から使われている道具を見る事も出来ます。
町の境界線の溝が当時のまま残っています

17 薬院

明治時代の2階建(一部3階建て)の建物で、向かって左側は外観からはわかりにくい知る人ぞ知るおいしいてんぷら屋さん。オーナーの祖父は長崎と上海で活躍した家具職人だったそうだ。



18 布あそび中島

大正9年(1920年)の建物。2階建の古い町家をお店に利用しています。引き戸を開けて一步入ると、店内は「古いものの良さを大切にしたい」というオーナーが選んだ、和と布をテーマにした商品が部屋一杯に広がっています。



19 しみぬき杉本家

いいものを大切に使うお手伝いをするしみぬき屋さん。志んし張など長い間使いこまれた古いめずらしい道具達が今も残っています。



20 氣楽家

2階建の古い町家。定年後、長崎に定住し「氣楽に肩の力を抜いていこう」と命名。真ん中にトンネル状の小路があり、奥には貸し教室があります。建物は向かって左側が住まい、右側が喫茶店となっています。また、2階も習い事の教室に利用されていて、喫茶室は、町家を愛するオーナーと利用客で賑わっています。



新橋町



22 一力

「一力」は文化十年（1813年）創業の長崎を代表する料亭です。伊東深作画伯ゆかりの場所、幕末の志士の交流の場であったことなど、歴史的なエピソードも豊富です。また山本森之助（一力のご長男）の画をはじめ、各部屋やロビーにたくさんの画や書が展示されています。建築物としての側面からも、木造三階建てであることや、当時からそのまま残る建具の意匠などからその歴史を感じることができます。また、大広間の天井の杉板は、当時熊本城にあった杉から切り出したものであると伝えられています。建築物としてはもちろん、地域住民の方の交流の場としても長崎の歴史とともに歩んできた「一力」。ながさき遺産としてぜひ訪問していただきたい場所です。



当時から残る木造三階建ての建物



歴史を感じさせる建具の意匠



熊本城から運んだといわれる天井の杉板



伊東深作画伯作（一力の風景）

23 長崎青果食品協同組合（青空市場）

昭和24年頃までは中島川付近で据え売りをしていた人達が昭和25年頃、200人ほどで現在の場所に移動して、今日の青空市場の原形が出来ました。



青空市場の様子。磨屋小学校も見えます。

昭和27年12月に、組合登記をし、青空市場の除幕式がとり行われました。そして昭和32年、屋根をはりました。名称は青空市場のままです。組合員は最盛期で900人ほどの登録があり、昭和51年に520人という記録資料が残されています。現在の産地直売のはしりと言えます。



現在の青空市場

24 中央保育所の塀

風情ただよう寺町通りに映える中央保育所の石塀。とても古いものではないかといわれています。長崎のいにしへの和の雰囲気を残す場所です。



ながさき遺産めぐり

中通り商店街編

「ながさき遺産めぐり 中通り商店街編」もごさいます。ぜひ、ご覧ください。